

# 福島第一原子力発電所20km圏内海域における魚介類の測定結果

## 資料3-2

2026年6月10日  
東京電力ホールディングス株式会社

### I. 港湾外20km圏内モニタリング結果概要（セシウム）

今回のまとめ

- 1 採取日 2026年1月8日 ~ 2026年3月27日
- 2 地点数 11地点
- 3 総検体数 30種169検体（クロソイの検体数：6検体）
- 4 不検出数 167検体（98.8%）

2026年1月~3月に東京電力が実施した福島第一港湾外における魚介類のモニタリングのうち、セシウム濃度が検出された魚介類を以下に示す（セシウムの食品基準値100Bq/kgを超える試料は無かった）。

採取地点	採取日	魚種	全長(cm)	体重 (kg)	セシウム合計 Bq/kg(生)
T-S8	1月8日	カスザメ	92.0	6.84	27
T-B4	3月3日	カナガシラ	24.0	0.16	5.5
			26.7	0.23	
			28.0	0.25	
			25.2	0.17	
			28.6	0.27	
			26.2	0.20	

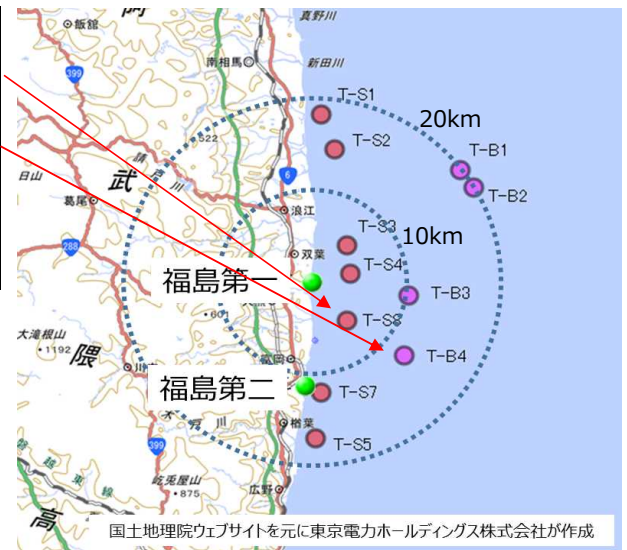
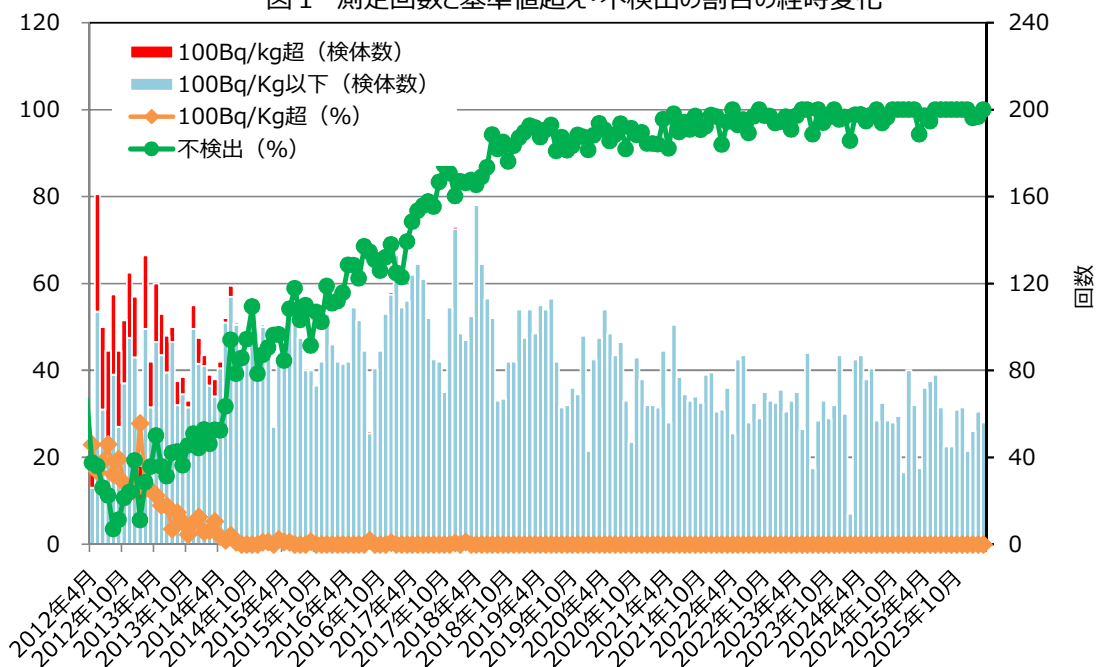


表1 放射性セシウム濃度が100Bq/kgを超えた検体数・割合と不検出の検体数・割合

年度	月	全体数	100Bq/kg超		検出～100Bq/kg		不検出	
			検体数	%	検体数	%	検体数	%
2011年度	-	3	0	0.0	2	66.7	1	33.3
2012年度	-	1197	389	32.5	654	54.6	154	12.9
2013年度	-	1086	133	12.2	713	65.7	240	22.1
2014年度	-	1104	15	1.4	616	55.8	473	42.8
2015年度	-	1087	3	0.3	501	46.1	583	53.6
2016年度	-	1183	2	0.2	411	34.7	770	65.1
2017年度	-	1270	2	0.2	245	19.3	1023	80.6
2018年度	-	1211	0	0.0	116	9.6	1095	90.4
2019年度	-	1002	0	0.0	62	6.2	940	93.8
2020年度	-	940	0	0.0	54	5.7	886	94.3
2021年度	-	854	0	0.0	31	3.6	823	96.4
2022年度	-	801	0	0.0	19	2.4	782	97.6
2023年度	-	737	0	0.0	12	1.6	725	98.4
2024年度	-	750	0	0.0	9	1.2	741	98.8
2025年度	4月	72	0	0.0	1	1.4	71	98.6
	5月	75	0	0.0	2	2.7	73	97.3
	6月	78	0	0.0	0	0.0	78	100.0
	7月	63	0	0.0	0	0.0	63	100.0
	8月	45	0	0.0	0	0.0	45	100.0
	9月	45	0	0.0	0	0.0	45	100.0
	10月	62	0	0.0	0	0.0	62	100.0
	11月	63	0	0.0	0	0.0	63	100.0
	12月	43	0	0.0	0	0.0	43	100.0
	1月	52	0	0.0	1	1.9	51	98.1
	2月	61	0	0.0	1	1.6	60	98.4
	3月	56	0	0.0	0	0.0	56	100.0
合計		13940	544	-	3450	-	9946	-

図1 測定回数と基準値超え・不検出の割合の経時変化



## 表2 モニタリング実績

- ・魚種数：40種 検体の種類数
- ・2025年4月～2026年3月に採取

分類	魚種名	分類	魚種名
魚類	アイナメ	魚類	ニベ
	アカエイ		ババガレイ
	イシガレイ		ヒラメ
	イシダイ		ブリ
	オオクチイシナギ		ホウボウ
	カスザメ		ホシエイ
	カナガシラ		ホシザメ
	ガンゾウビラメ		マアジ
	キアンコウ		マアナゴ
	キツネメバル		マイワシ
	クロソイ		マコガレイ
	クロダイ		マゴチ
	コモンカスベ		マサバ
	ショウサイフグ		マダイ
	シログチ		マダラ
	シロメバル		マトウダイ
	スズキ		マフグ
	ソウハチ		ムシガレイ
	タチウオ		メイタガレイ
	チダイ	甲殻類	ガザミ

## II. 定点モニタリング結果概要（トリチウム）

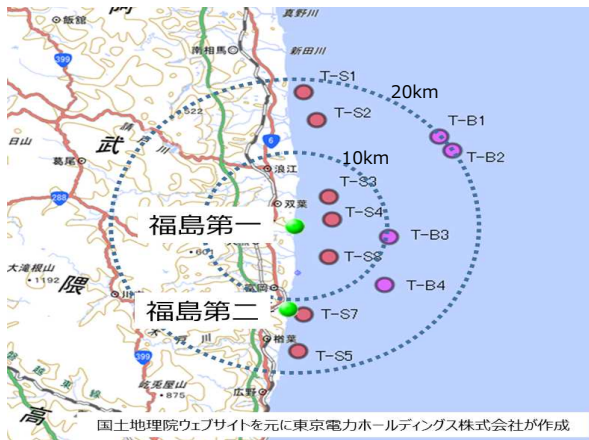
(1) 魚の測定結果（トリチウム） 1/2

2025年9月～2025年11月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。

組織自由水型トリチウム（FWT）の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム（OBT）はすべて不検出であった。

採取地点	採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型トリチウム (Bq/L)	有機結合型トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の平均値と幅		
								平均値(検出値の平均値)	幅	
20 km 圏内北側	T-S1	9月11日	対象魚なし	-	-	-	-	0.076	ND ~ 0.11	
		10月23日	ヒラメ	50.4	1.34	ND(0.062)	ND(0.20)			ND(0.061)
				46.4	0.95					
	11月20日	ヒラメ	48.3	1.07	-	-	0.072			
	T-S2	9月11日	ヒラメ	45.5	1.01	-	-			0.11
		10月23日	ヒラメ	44.6	0.91	-	-			ND(0.061)
41.7				0.71						
11月20日	ヒラメ	50.6	1.25	-	-	0.077				
10 km 圏内	T-S3	9月18日	対象魚なし	-	-	-	-	0.12	ND ~ 0.23	
		10月15日	ヒラメ	54.9	1.51	-	-			0.097
				81.1	5.19					
		11月6日	ヒラメ	59.4	2.18	0.080	ND(0.21)			ND(0.062)
	35.0			0.63						
	T-S4	9月18日	ガンゾウヒラメ	35.1	0.59	-	-			0.18
				29.5	0.30					
				29.7	0.35					
		10月15日	ヒラメ	60.5	2.14	-	-			0.095
				48.8	1.11					
	11月6日	ヒラメ	49.5	1.18	0.11	ND(0.21)	ND(0.067)			
			47.2	1.05						
T-S8	9月18日	対象魚なし	-	-	-	-	0.17			
	10月15日	ヒラメ	61.5	2.72	0.077	ND(0.23)	0.10			
			58.8	2.28						
	11月6日	ヒラメ	57.2	1.94	0.086	ND(0.24)	0.088			
20 km 圏内南側	T-S5	9月11日	ヒラメ	53.7	1.59	0.095	ND(0.24)	0.14	ND ~ 0.23	
				50.0	1.26					
		10月2日	ヒラメ	52.7	1.42	0.074	ND(0.20)			0.19
	57.8			1.95						
	11月13日	ヒラメ	52.5	1.55	0.26	ND(0.20)	0.23			
			57.9	1.83						
	T-S7	9月11日	対象魚なし	-	-	-	-			0.11
				10月2日	対象魚なし					
		11月13日	ヒラメ	64.3	2.92	0.16	ND(0.25)			ND(0.074)
				47.2	0.95					

—：採取中止または試料量不足により分析中止



※1 組織自由水型トリチウム（FWT）

- 魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。（水として体内（組織内）を移動する）
- 測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム（OBT）

- 魚の体の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
- 測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

\* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

(1) 魚の測定結果 (トリチウム) 2/2

2025年9月~2025年11月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。

組織自由水型トリチウム (FWT)の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム (OBT)はすべて不検出であった。

採取地点	採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型トリチウム (Bq/L)	有機結合型トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の平均値と幅			
								平均値(検出値の平均値)	幅		
10 km~ 20 km 沖合	9月16日	マコガレイ	34.2	0.59	-	-	0.15	0.12	0.089 ~ 0.15		
			29.8	0.33							
			33.7	0.57							
	10月21日	マコガレイ	40.6	0.81	-	-	0.11				
			35.2	0.50							
			32.9	0.41							
	12月2日 (11月分)	ヒラメ	62.3	2.43	ND(0.081)	ND(0.29)	-				
			58.5	2.01							
			52.1	1.49							
	9月16日	マコガレイ	35.9	0.57	-	-	0.11				
			36.0	0.57							
			38.0	0.66							
			20.2	0.11							
			23.2	0.16							
			22.6	0.17							
			23.0	0.19							
			21.5	0.13							
			23.3	0.17							
			19.3	0.10							
			24.3	0.20							
			21.8	0.14							
	12月2日 (11月分)	ヒラメ	46.2	0.93	ND(0.081)	ND(0.29)	-				
			56.5	1.75							
			40.8	0.61							
	9月	-	-	-	-	-	-				
			-	-							
			-	-							
	10月18日	対象魚なし	-	-	-	-	0.089				
			-	-							
			-	-							
11月22日	対象魚なし	-	-	-	-	0.14					
		-	-								
		-	-								
9月	-	-	-	-	-	-					
		-	-								
		-	-								
		10月18日	ヒラメ				51.5	1.34	0.13	ND(0.25)	0.092
							44.8	0.91			
							43.2	0.75			
							29.6	0.25			
		11月22日	ヒラメ				30.7	0.26	0.075	ND(0.26)	0.12
							32.0	0.30			
							32.5	0.30			
							28.6	0.22			
							28.6	0.21			
33.7	0.36										
36.3	0.43										
41.8	0.61										

- : 採取中止または試料量不足により分析中止



※1 組織自由水型トリチウム (FWT)

- ・魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。  
(水として体内 (組織内) を移動する)
- ・測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム (OBT)

- ・魚の体の細胞組織 (有機物) に含まれるトリチウムのこと。(細胞組織と結合したトリチウム)
- ・測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

\* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

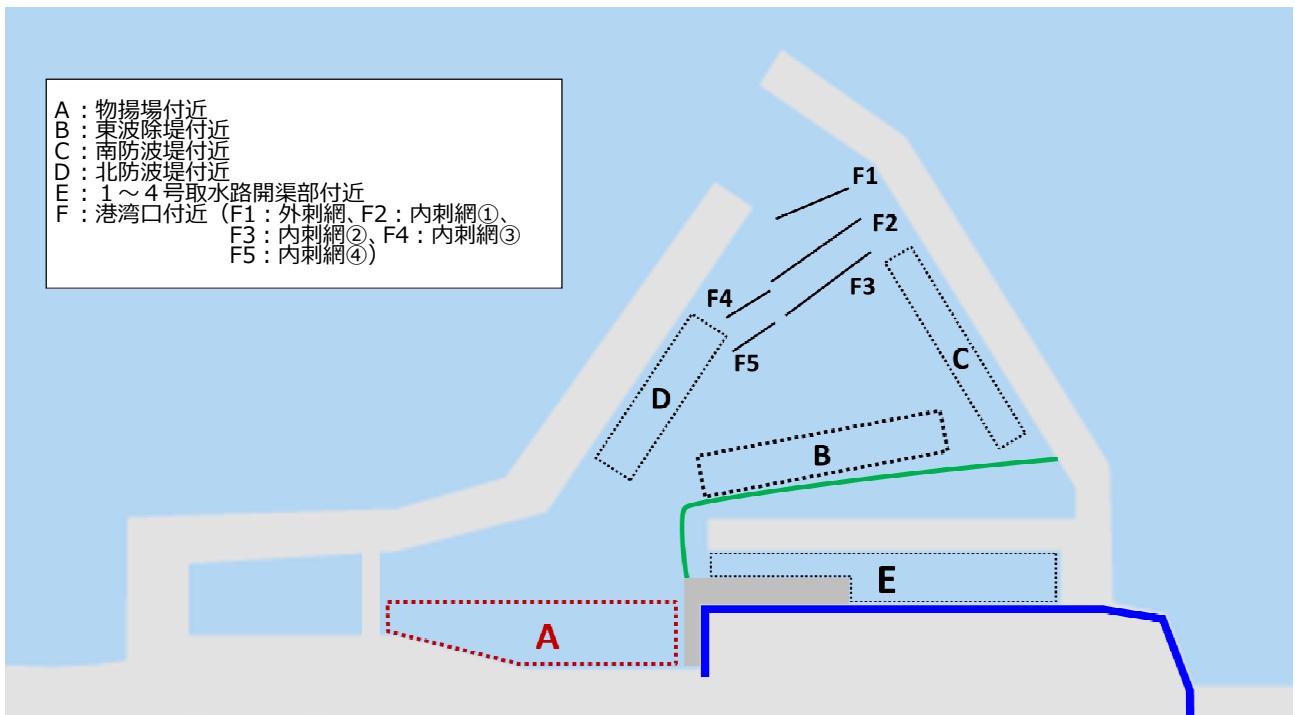
### Ⅲ. 福島第一原子力発電所港湾魚類捕獲状況（速報）

#### A. 物揚場付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	はえ縄漁,かご網漁	17	クロソイ	ND(2.1)	70	70	31.5	0.442
2023年度	底刺し網漁,かご網漁	184	ウナギ	7.9	440	447.9	55.0	0.194
2024年度	底刺し網漁,かご網漁	24	アイナメ	ND(2.1)	28	28	38.5	0.750
2025年4月		0	試料採取無し					
2025年5月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.3)	18	18	51.5	0.175
2025年6月	かご網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.1)	29	29	82.0	0.815
2025年7月	アナゴ筒漁	3	マアナゴ	ND(1.9)	30	30	73.0	0.540
2025年8月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	9	マアナゴ	ND(1.9)	17	17	87.0	0.880
2025年9月	底刺し網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(2.3)	13	13	60.0	0.300
2025年10月	底刺し網漁,かご網漁,アナゴ筒漁	5	マアナゴ	ND(3.5)	29	29	62.8	0.320
2025年11月	底刺し網漁,かご網漁,アナゴ筒漁	6	マアナゴ	ND(2.4)	17	17	70.0	0.460
2025年12月	底刺し網漁	5	ヒラメ	ND(2.0)	14	14	68.0	3.060
2026/1/26	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.2)	2.7	2.7	40.0	0.655
2026/1/29	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(1.9)	9.2	9.2	70.5	0.575
2026年2月		0	試料採取無し					
2026/3/6	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.0)	4.6	4.6	43.9	0.960

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

#### 魚類捕獲場所



#### A. 物揚場付近

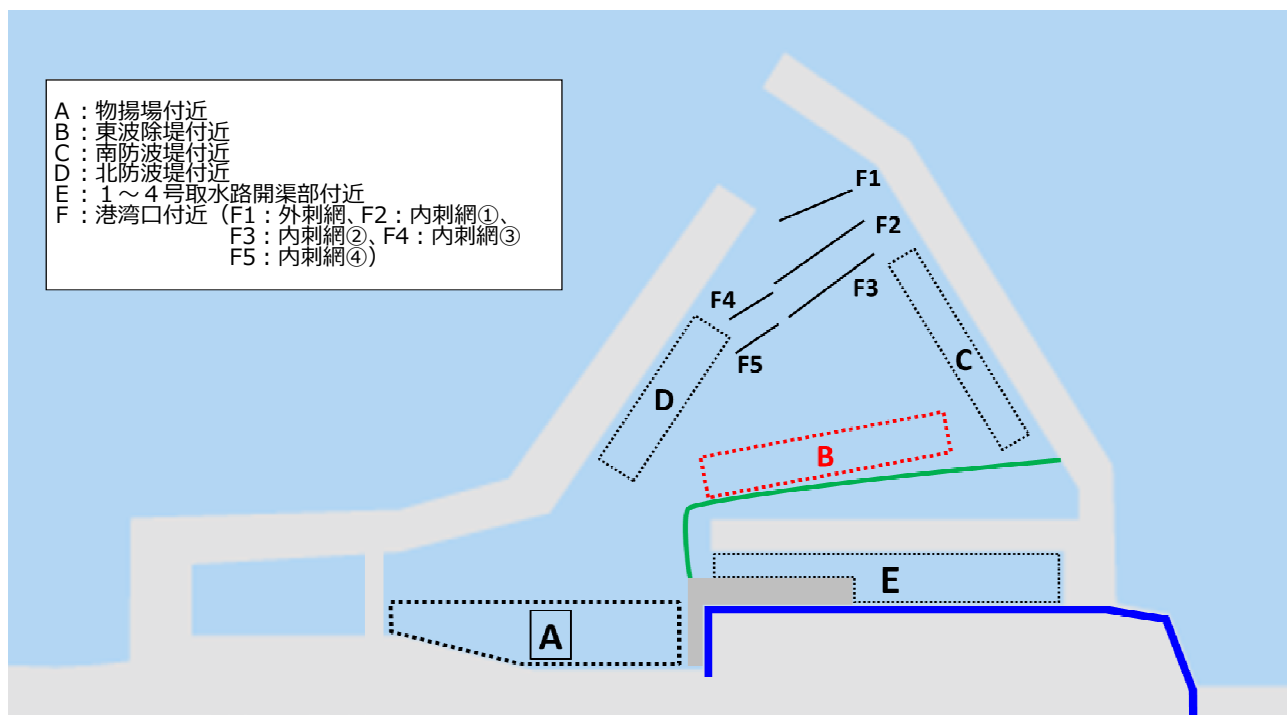
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目)) : 3回/週、かご網 : 1回/週、アナゴ筒 : 1回/2週

B. 東波除堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	451	ムラソイ	50	1,600	1,650	31.0	0.638
2023年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	394	クロソイ	16	750	766	29.0	0.326
2024年度	底刺し網漁	156	スズキ	ND(2.4)	24	24	69.0	2.595
2025年4月	底刺し網漁	3	アイナメ	ND(2.2)	22	22	34.0	0.520
2025年5月	底刺し網漁	22	スズキ	ND(2.2)	4.6	4.6	35.0	0.410
2025年6月	底刺し網漁	13	スズキ	ND(2.2)	3.6	3.6	56.0	1.725
2025年7月	底刺し網漁	9	マゴチ	ND(3.1)	13	13	35.0	0.265
2025年8月	底刺し網漁	5	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年9月		0	試料採取無し					
2025年10月	底刺し網漁	7	マゴチ	ND(2.6)	8.3	8.3	36.6	0.300
2025年11月	底刺し網漁	3	マゴチ	ND(4.0)	12	12	26.6	0.115
2025年12月	底刺し網漁	1	メジナ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/1/19	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.1)	2.6	2.6	43.5	0.745
	底刺し網漁	1	クロソイ	ND(2.3)	17	17	45.5	1.195
2026/1/20	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.0)	3.1	3.1	40.5	0.700
2026/2/16	底刺し網漁	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
2026年3月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



B. 東波除堤付近

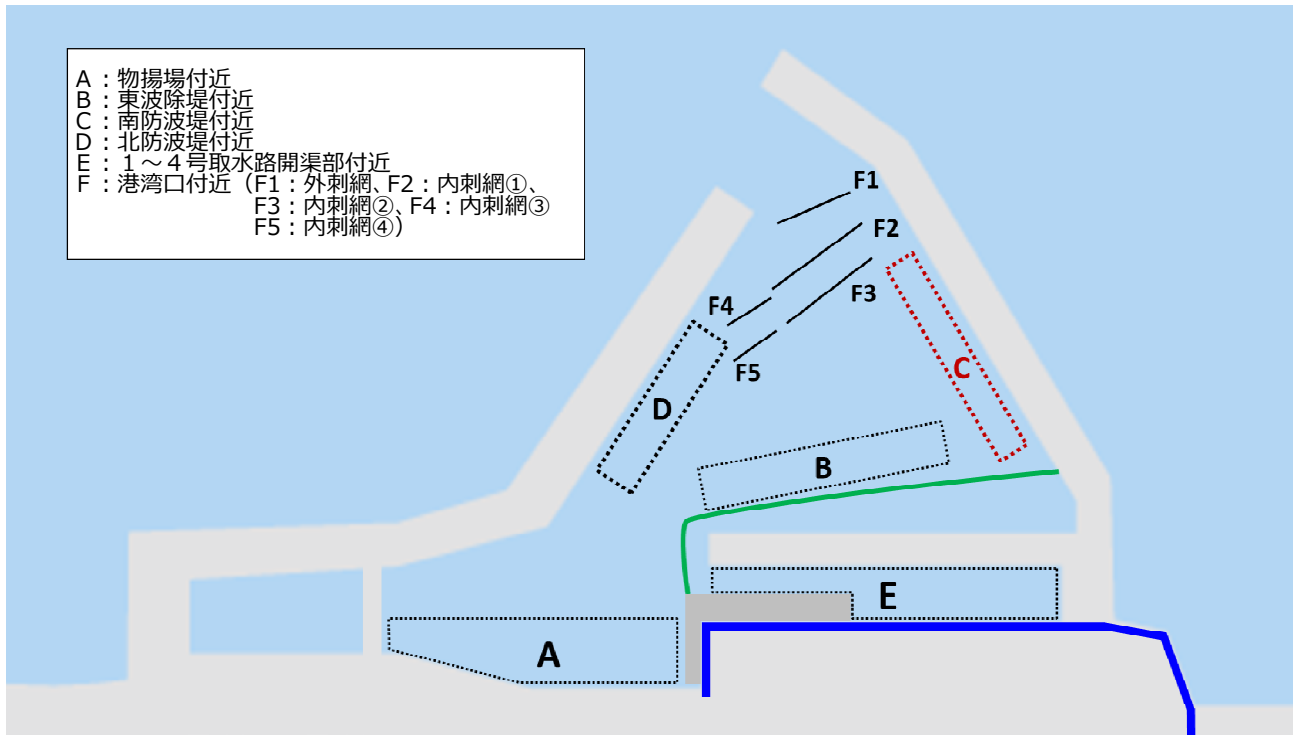
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目))：3回/週

C. 南防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁, かご網漁	164	タケノコメバル	ND(2.5)	54	54	41.5	1.122
2023年度	底刺し網漁, かご網漁	115	ボラ	ND(3.4)	150	150	37.5	0.506
2024年度	底刺し網漁, かご網漁	44	ムラソイ	ND(3.1)	46	46	24.5	0.270
2025年4月	底刺し網漁	1	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年5月	底刺し網漁	1	ヒラメ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年6月		0	試料採取無し					
2025年7月		0	試料採取無し					
2025年8月		0	試料採取無し					
2025年9月		0	試料採取無し					
2025年10月		0	試料採取無し					
2025年11月		0	試料採取無し					
2025年12月		0	試料採取無し					
2026年1月		0	試料採取無し					
2026年2月		0	試料採取無し					
2026年3月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



C. 南防波堤付近

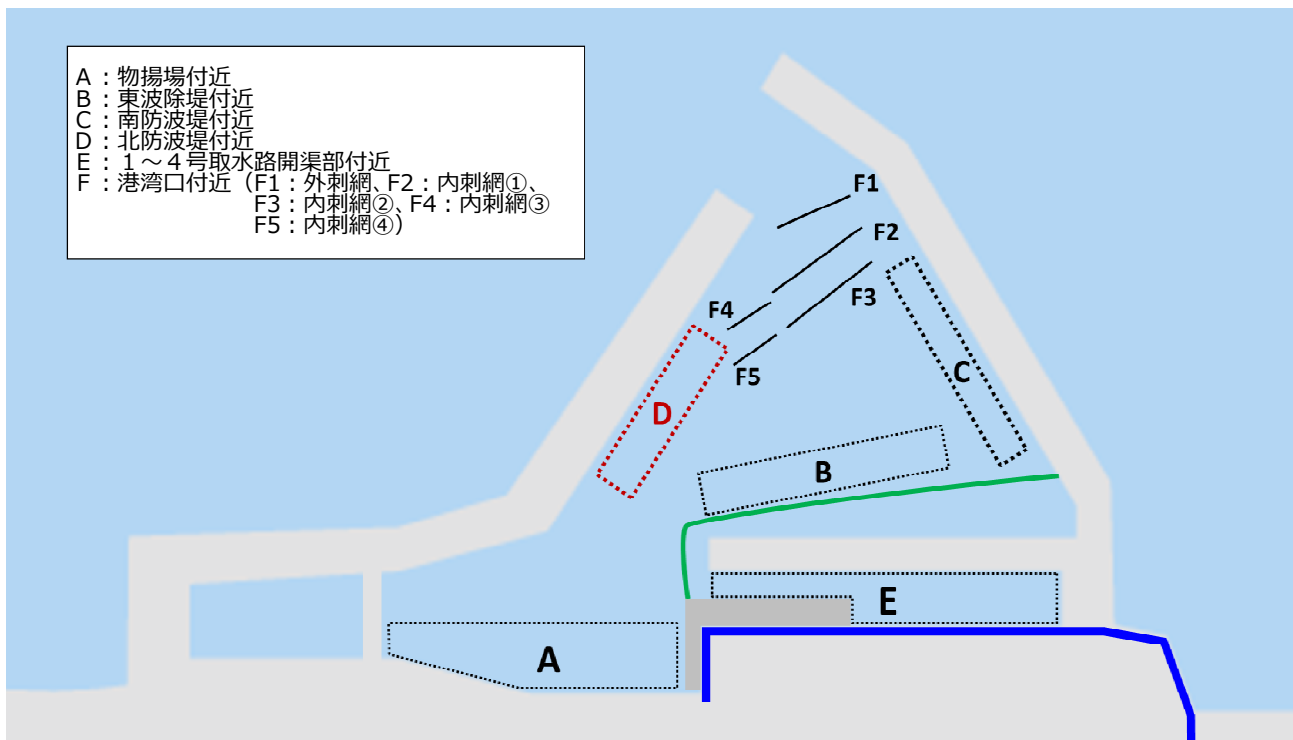
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)) : 3回/週、かご網 : 1回/週

D. 北防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	348	マコガレイ	9.3	430	439.3	38.0	0.610
2023年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	310	スズキ	9.4	470	479.4	42.5	0.630
2024年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	111	ムラソイ	ND(2.6)	32	32	25.5	0.350
2025年4月	底刺し網漁,かご網漁	4	エゾイソアイナメ	ND(4.1)	64	64	24.6	0.120
2025年5月	底刺し網漁	3	コノシロ	ND(3.2)	4.6	4.6	26.0	0.185
2025年6月	底刺し網漁,かご網漁	6	エゾイソアイナメ	ND(3.1)	30	30	30.0	0.270
2025年7月	底刺し網漁,かご網漁	7	コウイカ	ND(2.9)	ND(2.4)	ND	33.0	0.230
2025年8月	かご網漁	1	マダコ	ND(2.6)	ND(2.0)	ND	55.0	0.720
2025年9月	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	3	カンパチ	ND(3.3)	ND(2.4)	ND	27.0	0.225
2025年10月	かご網漁,はえ縄	3	アイナメ	ND(2.5)	14	14	42.5	0.940
2025年11月	かご網漁	2	マアナゴ	ND(2.1)	9.2	9.2	61.7	0.425
2025年12月	アナゴ筒漁	3	マアナゴ	ND(2.3)	11	11	68.0	0.795
2026/1/15	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(2.8)	11	11	71.0	0.600
2026/1/27	底刺し網漁	1	スズキ	ND(2.1)	ND(1.8)	ND	30.0	0.230
2026/2/5	かご網漁	1	エゾイソアイナメ	ND(2.7)	15	15	27.5	0.200
2026/2/6	底刺し網漁	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/2/12	かご網漁	1	ムラソイ	ND(4.0)	19	19	21.5	0.180
2026/2/17	底刺し網漁	1	アイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
2026年3月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



D. 北防波堤付近

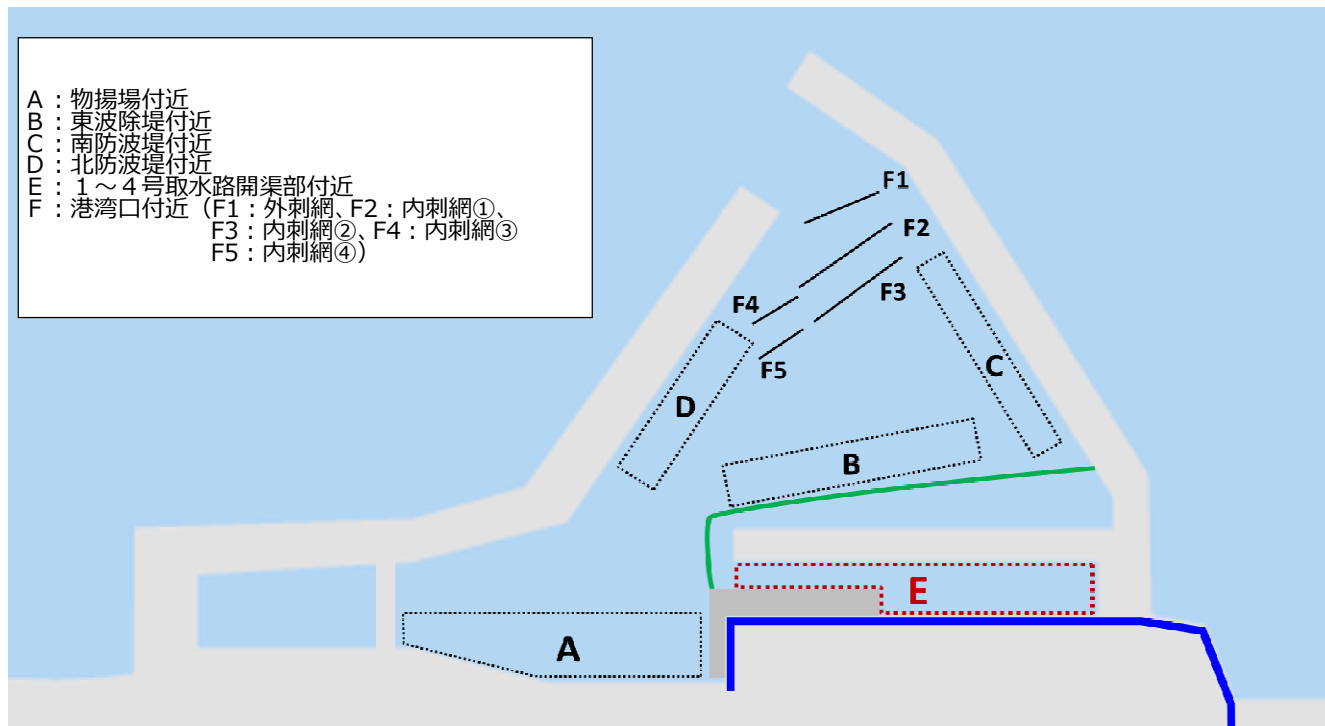
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目))：3回/週、かご網：1回/週、はえ縄：1回/2週

E. 1～4号取水路開渠部内（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	かご網漁	13	ウナギ	48	1,700	1,748	71.0	0.618
2023年度	かご網漁	21	クロソイ	380	18,000	18,380	30.5	0.384
2024年度	かご網漁	1	マハゼ	重量不足のため測定対象なし				
2025年4月		0	試料採取無し					
2025年5月		0	試料採取無し					
2025年6月		0	試料採取無し					
2025年7月		0	試料採取無し					
2025年8月		0	試料採取無し					
2025年9月		0	試料採取無し					
2025年10月		0	試料採取無し					
2025年11月		0	試料採取無し					
2025年12月		0	試料採取無し					
2026年1月		0	試料採取無し					
2026年2月		0	試料採取無し					
2026年3月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



E. 1～4号取水路開渠部内

- ・試料採取を目的に網等を設置しているが、港湾とは仕切られているため陸上から実施できるかご網とアナゴ筒を採用。
- ・かご網：1回/週、アナゴ筒：1回/2週（仕掛けは常時設置）

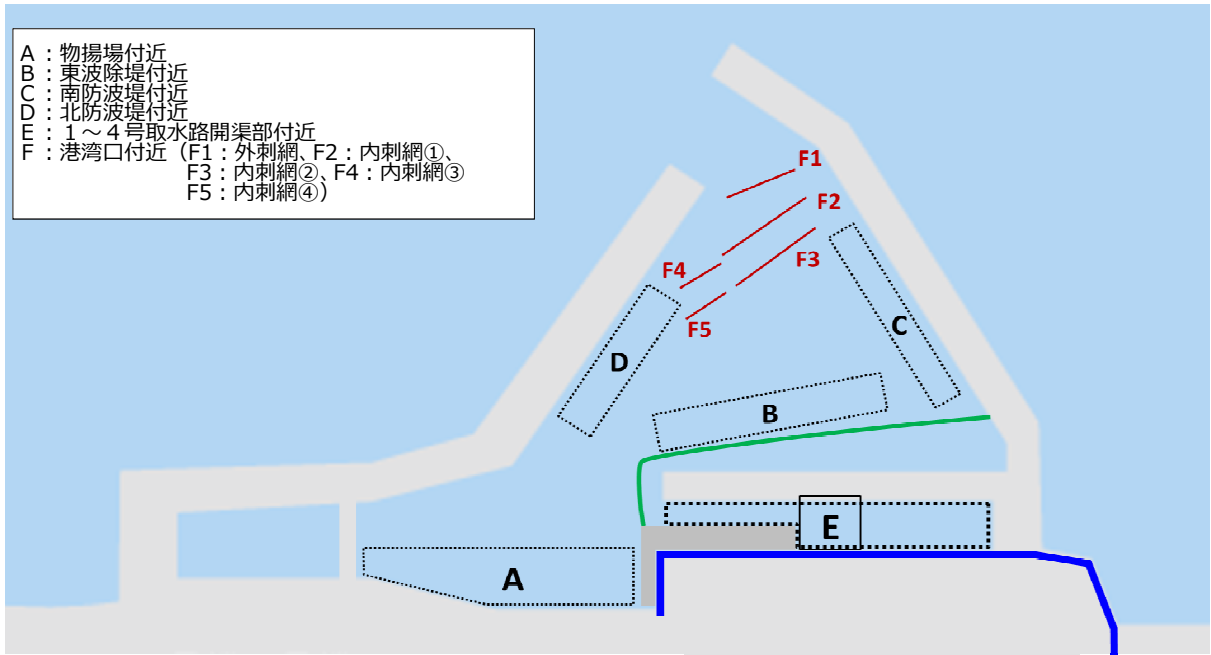
F. 港湾口付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁(F)	331	ムラソイ	4.2	180	184.2	36.0	0.936
2023年度	底刺し網漁(F)	250	マコガレイ	20	890	910	39.5	0.558
2024年度	底刺し網漁(F)	94	マコガレイ	ND(2.3)	47	47	38.0	0.500
2025年4月	底刺し網漁(F)	4	マコガレイ	ND(2.0)	10	10	39.0	0.795
2025年5月	底刺し網漁(F)	7	マゴチ	ND(2.6)	ND(2.0)	ND	56.0	1.170
2025年6月	底刺し網漁(F)	10	コノシロ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年7月	底刺し網漁(F)	3	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年8月	底刺し網漁(F)	2	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2025年9月	底刺し網漁(F)	6	マコガレイ	ND(2.2)	13	13	43.5	1.430
2025年10月	底刺し網漁(F)	13	マゴチ	ND(2.0)	7.3	7.3	41.5	0.415
2025年11月	底刺し網漁(F)	15	クロソイ	ND(2.8)	85	85	29.9	0.475
2025年12月	底刺し網漁(F)	11	ムラソイ	ND(2.4)	36	36	24.0	0.230
2026/1/7	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/1/14	底刺し網漁(F4)	1	クロソイ	ND(1.9)	81	81	37.0	0.725
	底刺し網漁(F5)	1	マコガレイ	ND(2.6)	14	14	41.0	0.985
2026/1/21	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	ND(2.0)	9.9	9.9	47.0	0.825
2026/1/28	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/2/4	底刺し網漁(F1)	1	マコガレイ	ND(2.0)	3.0	3.0	43.5	0.750
	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	2	キチヌ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F4)	1	キチヌ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/2/10	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/2/25	底刺し網漁(F1)	1	ヒラメ	ND(2.2)	6.5	6.5	40.5	0.670
	底刺し網漁(F4)	1	アイナメ	ND(2.9)	4.0	4.0	41.5	0.770
2026/3/4	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	クロソイ	ND(2.9)	7.7	7.7	40.0	0.960
	底刺し網漁(F3)	1	キツネバル	ND(3.2)	3.0	3.0	26.2	0.365
2026/3/18	底刺し網漁(F1)	1	クロソイ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F2)	1	カレイ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/3/25	底刺し網漁(F2)	1	ムラソイ	試料損傷のため測定対象なし				

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

捕獲魚類数合計 約 10,100 (2012年度に捕獲した829匹を含む)

魚類捕獲場所



F. 港湾口付近

- ・主に港湾内外の魚の移動防止を目的に網を設置しているため、大型船舶航行時以外は常時設置とし、網を揚げる頻度も週1回としている。
- ・底刺し網(外刺網：スズキ網(4.5寸目)1枚、内刺網：カレイ網(4.5寸目)2枚、バル網(2.5寸目)2枚)：1回/週。

#### IV. 港湾魚類対策の概要

##### 1. 目的

福島県で行われている漁業や、モニタリングで捕獲される魚介類から高濃度のセシウムが検出されることによって、国内外の消費者に不安を与え、漁業の復興を妨げることを無きように、港湾の環境改善による魚介類の汚染防止、魚介類の移動防止・捕獲、モニタリングなど港湾魚類対策を継続して実施している。

##### 2. 対策メニュー

港湾の環境改善 (汚染防止)	セシウム濃度の高い魚の発生防止のため、海底土被覆、K排水路の水質改善（フェーシング、がれき撤去、浄化材設置、清掃等）などに取り組んでいる。
魚類の移動防止・ 捕獲	港湾内の魚類が港湾外に移動するのを防止するため、魚類移動防止網（東波除堤、1-4号機取水路開渠出口等）の設置や港湾での刺し網、かご網等による捕獲に取り組んでいる。
モニタリング	港湾の水質改善の効果や魚類の状況を確認するため、海水中放射性物質濃度や魚類のセシウム濃度のモニタリングに取り組んでいる。

##### 3. 魚類の移動防止・捕獲の強化

これまで取り組んできた港湾魚類対策の進捗により、2024年4月以降、港湾内で捕獲される魚のセシウム濃度は低下している。

ただ、昨年11月にセシウム濃度85<sup>ベ</sup>ク/ル/kg、本年1月に81<sup>ベ</sup>ク/ル/kgの魚類が港湾内で捕獲。港湾の環境改善については、水質は改善しているものの、対策の実施・効果の発現には引き続き時間を要することから、機動的な対策として、港湾内の成魚の生息を抑制する観点も含め、港湾内から港湾外への魚類の移動防止・捕獲の取り組み強化が必要。

このため、先般（2026年2月18日）、相馬双葉漁業協同組合にご相談を実施。頂いたご助言を踏まえ、強化策を検討・実施していく。

##### <相馬双葉漁業協同組合と港湾魚類対策の強化のご相談結果>

- ・刺し網は、魚群探知機で確認して魚がいる場所や防波堤沿いなどに仕掛ける。位置を時々変える。
- ・かご網も同様に、魚群探知機を活用し設置場所を設定。かご網内の餌は、筒に入れるのではなく、餌を刺してそのまま入れる。位置も時々変える。
- ・はえ縄を仕掛ける時間帯は、魚の動き出す夜明け頃で、仕掛けてから2～3時間程度で引上げる。防波堤沿いはやってみる価値がある。
- ・投網をするよりも、かご網を増やす方が効果的。

具体的には、2026年1月より実施している対策に加えて、以下の通り、調査も活用しながら、積極的な魚類の捕獲に取り組んでいく。

○刺し網、かご網等の漁獲を増やすため、魚群探知機を活用し、魚が現れやすい場所を選んで刺し網やかご網を設置する取り組みを行い、魚類捕獲の強化を図る。

○漁獲の少ないはえ縄の運用方法の改善、かご網の追加、新しい手法を用いた調査、捕獲（集魚灯の活用、クロソイの胃の内容物調査など）の検討などに取り組み、継続して魚類捕獲の強化を図る。



## ○港湾内かご網の実施状況



(凡例  : かご網 (27個)  : 大型かご網 (1個) 1回/週)

- ・2024年11月21日から集魚灯を設置
- ・③設置エリアを限定せず柔軟に位置を変えながら実施し、魚類捕獲を強化
- ・④魚群探知機の活用によるかご網設置場所の選定は継続検討中、エサの投入方法を3月5日より変更 (魚体を直接かご内に投入)
- ・⑤2026年4月16日から物揚場周辺にかご網 (5個) 追加



使用しているかご網 (もんどり)

## ○港湾内はえ縄及びアナゴ筒の実施状況

(凡例  : アナゴ筒 (12個)  : はえ縄 1回/2週)

- ・はえ縄を設置(1地点) (2022年7月28日設置)
- ・アナゴ筒を設置(12地点) (2025年4月24日設置)
- ・⑤はえ縄の運用を改善 (3月11日実施より早朝に仕掛けて約3時間後に引き上げる運用に変更)、新しい手法を用いた調査、捕獲 (集魚灯活用、投網など) については引き続き検討
- 2026年4月8日に餌をエビに変更したが、採捕できなかった。
- 餌をイカに変えて実施中。引続き、餌について検討を行う。


## ○魚類移動防止網の設置箇所 (凡例 : 南防波堤付近 : 東波除堤付近)

- ・東波除堤魚類移動防止網リプレイス (2024年3月4日完了)

## ○シルトフェンスの設置箇所 (凡例 : 物揚場 : 1~4号機開渠内)

## ○港湾口ブロックフェンスの設置箇所 (凡例 )

## ○1~4号機開渠魚類移動防止網の設置箇所

- ・開渠出口の魚類移動防止網の網目微細化 (凡例  ) (2023年9月1日網設置)

## 2. 港湾の環境改善

- 1~4号機取水路開渠の再被覆工事 (2024年6月13日完了)
- K排水路の水質改善 (排水路清掃、浄化材設置、1-4号機周辺のがれき撤去、フェーシングなどを継続して実施中)

## 3. モニタリングの充実

- 従来より小さな魚や損傷魚のうち状態の良い魚を分析開始。(2025年2月より)
- 港湾内の海水・海底土をサンプリング実施 (2025年11月19日)
- なお、海水については、検出下限値を下げて分析中